

「まちづくりは人づくり、地域の子どもは地域で育てる」 地域教育「明日の風」 北都留地域教育推進連絡協議会 定期総会・教育講演会

北都留地域教育推進連絡協議会では、7月2日(金)に定期総会・教育講演会を上野原文化ホールで開催しました。総会では、昨年度の事業報告をプレゼンにて行い、会計決算報告・会計監査報告に続き、役員選出では、会長を小林信保大月市長とし、村上信行上野原市長、松木直美小菅村長、岡部岳志丹波山村長を副会長とする役員が承認されました。令和3年度の事業計画案および会計予算案では、「まちづくりは人づくり、地域の子どもは地域で育てる」のスローガンのもと、北都留地域の各種団体・行政、地域住民との連携を図り「望ましい環境づくり」を推進する多くの事業についての貴重な意見をいただき可決しました。



総会の後、大月短期大学 佐藤茂幸教授の「大月短大生による桃太郎ガイドの実践」の活動事例発表が行われました。



また、教育講演会ではLGBT啓発活動講師 大久保 暁氏をお招きして「幸せのかたち～ひとりひとりが輝く未来のために～」と題してご講演いただきました。参加者からは「LGBTにはさまざまな種類があり、まず『知ること』が第一歩となる」との感想をいただきました。

地域教育「明日の風」の活動に対してコロナ禍であるからこそ「夢をもつことの大切さ」「改めて地域の教育力、地域の力の重要性を感じた」「明日の風の取り組みが、人材を育てることに役立っていることを実感した」等様々な感想が寄せられました。

秋山中学校 全校スピーチ集会

上野原市立秋山中学校(山崎明彦校長)では、7月20日(火)の1学期終業式の日により10年以上も続く伝統行事「スピーチ集会」が開かれました。



「自分の思いを伝える力を鍛えよう」を目標に、1年に3回、2分程度で各学年1名の代表者が全校生徒の前で、発表する行事です。今回の3名の発表者は、パネルや画像、映像を用いながら、聞き手に伝えたいことをはっきりとわかるように自分たちの身近な話題に関連させる工夫をしていました。また、聞き手も3つの観点(主題・工夫・聞きやすさ)で評価をおこなっていました。



秋山中学校では、地域性から子どもたちのコミュニケーション能力や表現力の育成に日頃より取り組み、近年ではICTを授業で積極的に取り入れています。「話し手」と「聞き手」双方の協働の重要性及び自己の意見の表出化、表現のしかたの工夫についてあらゆる場面をつかい教育活動を展開しています。

教育相談ネットワーク会議

7月7日(水)に南都留合同庁舎において、第1回南北都留教育相談ネットワーク会議(会長:角田広美都留児童相談所所長)が開催されました。

この会議は、各種の相談機関がそれぞれの経験や専門性を生かしながら相談事例に関する情報や技術、認識の共有化を図り対応を支援し合い、連携して研究・学習活動を通じて効果的な地域の青少年支援を目指すものです。

今回は、これまでの経過説明と今年度の役員選出、活動計画がしめされました。また、富士河口湖町教育委員会の今澤真治氏からレポート提案がなされ、参加者がグループワークをしながら討議を行いました。

※今年度から第1回と3回の会議では、構成1団体に1提案をいただき、討議を行います。また、第2回は今日的な教育課題を共有・学習するための講演会を実施します。



自然体験、動物・昆虫とのふれあい、科学の実験!

帝京科学大学 東京西キャンパス

帝京科学の夏まつり

帝京科学大学(沖永莊八学長)と北都留地域教育推進連絡協議会(会長:小林信保大月市長)は、7月25日(日)に第18回「帝京科学の夏まつり」を上野原の帝京科学大学東京西キャンパス(上野原市)にて開催しました。

当日は170名を超える子どもや保護者が参加しました。「生き物を知ろう」、「上野原の自然や生き物を知ろう」、「科学に親しもう」をテーマに12コースが開講され、参加者は動物や昆虫とふれあったり、大学周辺の野外で活動したり、ものづくりや科学の実験などを体験しました。



帝京科学大学のアニマルサイエンス学科や子ども学科の学生が、趣向を凝らした体験コーナーを用意し、参加した子どもたちにわかりやすく、丁寧に対応していました。参加者は、校舎外にあるビオトープ池でトンボや水中生物の観察をしたり、モルモットと触れ合ったり、ちりめんじゃこのなかからタコやイカ、タツノオトシゴなどを探さしてオリジナル図鑑を完成させていました。また、様々な実験や工作活動に挑戦し、夏の思い出づくりをしていました。



富士北稜高校 親子カルチャー教室

富士北稜高校(塩入由里校長)と南都留地域教育推進連絡協議会(鬘櫛利和会長)は、7月22日(木)海の日(日)に第19回「親子カルチャー教室」を開催しました。昨年度は、新型コロナウイルス感染症対策のため中止となりましたが、今年は「親子でつくろう手作りマスク」「光ファイバーで飾りをつくろう」「鋳物でオリジナル作品をつくろう」の3つの講座に児童・保護者合わせて15組30名が参加しました(感染予防対策として、参加人数を例年の約半分にしています)。

当日は14名の高校生がミニ先生となって小学生を指導しました。ミニ先生の親切で丁寧な教え方に、参加者は親子で楽しむ「ものづくり」に熱中できたようです。各講座の最後には、参加児童に終了証が渡され、完成した作品を手にした子どもたちの表情は達成感にあふれていました。

参加者からは、「お母さんと一緒にものづくりができて、すごく楽しかった。」「コロナでイベントに参加できない中で、良い体験ができました。」「ミニ先生が丁寧に教えてくれ、家では見せない子どもの姿に触れることができました。」などの感想が寄せられ、大変好評でした。





上野原高校 チャレンジ! 上高アニメーション

上野原高校(棚橋雅一校長)と北都留地域教育推進連絡協議会(小林信保会長)は、8月3日(火)に「チャレンジ! 上高アニメーション」を開催しました。昨年は新型コロナの影響で上野原高校のオープンキャンパスの中で中学3年生に対して行いましたが、今年度は上野原高校の図書館において、上野原・大月市内の中学生14名と学校関係者等が参加しました。

上野原高校は、図書委員会を中心に、「他の人の意見を聞き、自分とは違うものの見方や考え方を発見し、思考力や判断力、問題解決能力を身につける」ことを目的に、「読書へのアニメーション」に取り組んでいます。

当日は、『卒業旅行』(角田光代著)をテキストに、作品の一節を作品と同じ順番になるように前後の文脈を推理して、正しく並び替えをしました。また、セリフや情景描写を根拠に人物の気持ちになって答えるという「彼を弁護します」を行いました。

参加した中学生からは、「他校の人とも交流を持つことができ楽しかった。」「本には直接書かれていない心の奥の気持ちが、他人と話し合うことで気づくことができました。」などの感想が聞かれ有意義な時間を過ごしました。



NPO 法人にご研 親子のえがお研究クラブ お外 de あそぼう会



NPO 法人にご研 親子のえがお研究クラブ(谷内佑季代表)は、子育て中の親子に対して親子の「今(現状)」を研究し、本当に求められている子育て支援事業を行うことにより、親と子が共に生き活きと親子関係を構築できる社会を形成し、少子化社会の改善・児童虐待の防止に寄与することを目的としています。2016年にボランティアとして立ち上げられ、ママ目線から「あったらいいな♡」というイベントを開催しています。

7月29日(木)に都留文科大学 学校教育学科 堤英俊准教授の発案で「お外 de あそぼう会 in 都留文科大学」が、都留文科大学地域交流研究センターとNPO 法人にご研の連携により共同開催されました。今回は、大学構内で地域の親子と学生との交流や地域の方々に大学を知ってもらうことをねらいとしています(今回で2回目)。当日は、未就園児の親子5組に都留文大生4名らが参加しました。子どもたちは、セミの抜け殻集めや手製のペットボトル水鉄砲、水風船等で暑さに負けず、元気に過ごしていました。



第39回 吉田空襲展

~未来につなげる 吉田空襲の記憶~

1945年、2度にわたる武蔵航空への空襲の事実。その事実を知り、語り継ぐ中で、改めて戦争の悲惨さや平和の尊さを考えてみませんか。

主催者は、昨年度は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点で37回続いていた「吉田空襲展」を中止しました。しかし、戦争体験者が年々減少していく中、戦争を知らない世代の私たちが、戦争の恐ろしさ悲惨さを後世に伝えていく必要があると考え、今年度はコロナ禍でできる「吉田空襲展」を開催しました。また、戦争のみならず「私たちの日常生活、現代社会における『平和』とは何か」という視点も踏まえ、来場者の皆さんに「現在の世界情勢」や「SDGs」などの展示を見学してもらうことで、考えるきっかけにしてほしいと述べています。

7月30・31日の両日、富士吉田市民会館の3階において、感染症対策に留意しながら第39回吉田空襲展が開催されました。今回は、「戦時中のパネル写真と遺品、生活用品」「殉難慰霊碑の模型と武蔵航空シオラマ」「地域に関わる展示」「平和に関する展示館紹介」「広島原爆パネル」「一億総特攻の碑について」等の他に、「現在の世界情勢について」「SDGsについて」「山本美香さんパネル」「世界の子どもの現状について」の展示もされていました。



平和ポスター市長賞

富士河口湖町教育センター 情報教育研修会



8月3日(火)に富士河口湖町立船津小学校において、富士河口湖町教育センター主催の「情報教育研修会」が、小・中学校の先生方を対象に開催されました。講師には都留文科大学文学部国文学科 科長 野中潤教授を迎え、37名の参加者が「一人一台端末を中心としたICTの効果的活用」について実践を通じて学び合いました。

「Google Classroom」を使い、情報管理や課題提出、プレゼン、意見集約などのコミュニケーションツールとしての活用法を、実際の教材を使いながら学びました。受講者は、グループごとにテーマの違う動画を視聴し、感想の書き込みやお互いの情報共有を体感することで、リアルタイムに活動の様子が「見える化」できる良さを知りました。

講師のICT活用の考え方は先進的で、子どもたちの教育に新しい変化をもたらすことを感じさせる研修会となりました。

シオジ森の学校 間伐教室



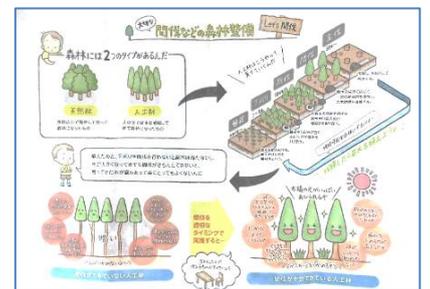
6月5日(土)にシオジ森の学校の「間伐教室」が開かれました。当日は、3組の家族が参加しました。

富士・東部林務事務所の講師の「間伐などの森林整備の大切さについて」の説明を受け

た後、伐採方法や注意事項の指導を受けました。また、シオジのスタッフからは、シオジの森の意義やシカの食害が進んでいる状況が説明されました。

初めてノコギリを手にする子どももいて、最初は慎重に作業を行っていましたが、倒木の際に「木を倒します！」と周りに声をかけ、「了解」と呼応する掛け声も次第に大きくなってきました。

子どもたちが協力しあって、1本の木を切り倒すと歓声がこだましました。日常生活の中では、なかなか体験することができない作業に、時間が過ぎるのを忘れるほど夢中になっていました。



シオジ森の学校観察プログラム 森の樹木と友だちになろう



7月24日(土)にシオジ森の学校 観察プログラム「森の樹木と友だちになろう」が行われました。当日は、3組の家族が参加し、大峠から先に分け入り、シオジの森の入口からお弁当広場まで2時間ほど森の中を歩きました。

お弁当広場周辺で、家族で自分が一番好きな木を探し出し、ニックネームをつけ、特徴や気づいたことをまとめました。その後、全員に友だち(樹木)を紹介し合いました。

参加者が「姫ちゃん」と呼ぶ樹木は、お姫様が腰をひねって踊っているような形から命名したそうです。子どもたちの自由な発想に周りの大人たちも驚かされました。



丹波山村 小・中連携 自然学習

丹波山村立丹波中学校（加々美竜也校長）では、昨年度から全校登山を含めた自然学習を年4回実施してきました。生徒たちは、丹波山村の自然を多角度から捉えることにより、新たな自然の発見や、ふるさとへの良さを知る機会となり、循環型社会への適応力の向上や自然の厳しさ、安全面への対策と理解について学ぶことができました。



蛇歩き



ミニ鹿制作

今年度は、自然を通じた交流により、思いやりや責任感、自主性を養いたくましく生きる力を丹波山村に生きるすべての子どもたちに体験してほしいと考え、保育所・小学校・中学校・地域が連携する「自然学習 ふるさと丹波山の森を感じよう」を企画しました。

残念ながら新型コロナの影響で保育所の参加は見送られましたが、8月25日（水）には、「奥秋キャンプ場」「丹波山村グリーンロード」「丹波山村交流センター」を舞台に、川村協平（山梨大学名誉教授）氏や佐藤駿一（森林インストラクター）氏らの参加のもと、24名の子どもたちが「キャンプ場の木などを利用した協働解決プログラム（ラップでセミ、蛇歩き、丸太わり、つなわり）」や「森林学習、伐採体験、見学、協働創作活動（ミニ鹿制作）」を行いました。



ラップでセミ

『蛇歩き』では、先頭の人が必要な声かけを行うことで、目隠しした後ろの人も安心して行動できることがわかった。『ラップでセミ』では、セミとなって木にへばりつくことをみんなで考え、工夫する協力プレーが必要だ。」など、参加した子どもたちの気づきがありました。子どもたちは協働して活動に取り組み、自然体験を通して自然にふれることの楽しさや関わりの必要性を学ぶことができました。

ことぶき勸学院

前期講座終了



4月13日（火）の入学式以降、6月中旬の「臨時特別協力要請」期間を挟み、ことぶき勸学院（南都留教室・北都留教室）の講座が、実施されてきました。

前半は講義を中心にしながら「地域を創る」「知識を深める」「時代をとらえる」をテーマとした講座が行われました。

また、「地域貢献」活動として小学校に赴き除草作業を行ったり、富士山科学研究所への訪問を行いました。

今後も新型コロナウイルス感染症の感染状況にもよりますが、午後の自主活動の実施や11月9日（火）にYCC 県民文化ホールで開催予定の「勸学院祭」に向けた取り組みも各教室で活発に行っています。



【 カラー版は、富士・東部教育事務所のHP からご覧いただけます。

URL : <http://www.pref.yamanashi.jp/kyoiku-ft/jouhoushibackn.html> 】

地域の皆様のご支援ご協力を得ながら、実りある実践となるよう努めてまいります。各事業についてご意見ご要望、地域連携活動の情報がありましたら、地域教育支援スタッフまでご連絡ください。

※連絡先 富士・東部教育事務所 地域教育支援スタッフ 0554-45-7841

大月 ももたろうプロジェクト (vol. 3)

小さい子どもたちに、桃太郎に関わるさまざまな事柄を紹介します

〔桃太郎と大月の関連〕

- ① 大月～旧甲州街道を上野原に向かうと、猿橋宿・鳥沢宿・犬目宿と続き、九鬼山・桃蔵山・鬼の杖・鬼の岩屋など地名や史跡がある。
- ② 郷土の昔話として「大月桃太郎伝説」〈岩殿山の鬼退治〉が残っている。
- ③ 猿橋の「桂川館」では、大正時代のはじめに「桃太郎餅」が販売されていた。包み紙には桃太郎の絵と「桃太郎、ここで伴を連れにけん 犬目、鳥沢、猿橋の宿」という歌が書かれていた（現在確認できる桃太郎をモチーフにした「最古のお菓子」と言われている）。
- ④ 昭和初期に出版された桃太郎の絵本には富士山をバックにした場面がたくさんあり、大月や上野原から見た風景にそっくりです。
※大月桃太郎伝説を郷土の宝として、愛着をもって伝えましょう。



〔大月桃太郎イベント・サミットの概要紹介〕

7月 ロゴマーク・絵手紙コンテスト開始（表彰・展示～11月）

8月以降 図書館を使った調べる学習桃太郎展（～11月）

大月桃太郎の歴史展（～11月：桂川ウエルネスパーク）

日本各地の桃太郎会展（～11月：桂川ウエルネスパーク）

桃太郎神社建立設置（～10月：桃太郎館） など

10月 16日 桃太郎サミット2021 in大月（会場：大月市立短期大学）

17日 桃太郎サミット植樹（野草のさと）、イベント（桂川ウエルネスパーク）

※詳しくは、桃太郎サミット2021 in大月実行委員会 事務局：山地 渉 090-5996-9862 まで



〔大月桃太郎伝説／岩殿山の鬼退治 大月市には鬼にまつわる話が古くから伝わっています〕

「郷土の昔話」元大月市賑岡公民館長 石井 深 編

…「岩殿山の赤鬼よ、これから桃太郎が貴様を退治に行くぞ」と叫んだら、昼寝をしていた鬼は目を覚まし、大いに怒って手にした石杖を二つに折り、声のした方へ投げつけた。左手だったが、地響きをたてて突き刺さり大きな石が動くほど揺れた。ここを今「石動」と呼んでおり、石の杖を「鬼の杖」と呼んでいます。

やがて西の方へまわった桃太郎が「赤鬼めー、覚悟しろー」と叫ぶと鬼は物凄いいなり声をあげて右手に持っていた石杖を桃太郎の方へ投げつけた。今度は勢い余ってびゅーんと桃太郎の頭上を飛び越して笹子の白野と原

の境に突き刺さった。これを今でも「鬼の立石」と呼んでいます。

石杖をなくした鬼は、岩石を持ち上げて投げつけたり蹴飛ばしたりして暴れ狂った。そのため岩殿山の頂上近くにあった大きな岩石は、南の桂川に転がり落ち、山の形が変わるほどだった。

鬼は頑張ったが、追い詰められて、遂に東にある徳蔵山に逃げようと片足をかけたところ股が裂け、とうとう死んでしまった。このとき飛び出した腸は固まって岩石となり下の畑の隅に転がっていて村人は「鬼の腸」と呼んでいました。そのとき流したおびたしい血は、土の中にしみこんで、今でも赤い血のような土が岩殿の子神社のあたりから沢山出てくるので「鬼の血」と呼んでいる。

※大月の地名があちらこちらにでてきていますね！みなさんも桃太郎の結末を調べてみてください！！



鬼の杖



鬼の皿



岩殿山

（鬼のすみか）